

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「英知・至誠」に基づき、新しい時代を担う英知と、豊かな人間性・創造性・社会性を身につけ、自ら学び、自ら考え、自ら鍛錬し、それに基づいて自ら誠実に行動することができる人を育成し、地域に愛される学校をめざす

2 中期的目標

- 1 授業改善と授業力向上に取り組み、「確かな学力」を身につけ、夢を実現する力を育成する教育活動
- (1) 組織的に授業力向上と改善に取り組み「主体的、対話的で深い学び」の授業を実践し、生徒の学力を向上させる
- ア 「学び合い、学び続ける生徒の育成」のため、全教員で「主体的、対話的で深い学び」の授業を行う
- イ 授業満足度の向上と、わかりやすい授業のため、全教員が生成 A I や多種多様なデジタルコンテンツについて知識を深め、それらを効果的に取り入れた授業を行う
- ※ 生徒「進路実現のための学力向上満足度」を向上させる [R05：78.9% R06：78.3% R07：79.2%]⇒令和 10 年度：85%]
- ウ カリキュラムの見直し、特に本校の特色の 1 つでもある「理数・看護発展コース」のカリキュラムについて、より一層特色化を進める
- エ 芸術系分野、特に美術や音楽を得意とする生徒が活躍できる環境作りに取り組む
- (2) 総合的な探究の時間をはじめ、すべての教科・科目等において、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学びを充実させることにより、新たな価値を生み出す力や課題を発見し解決していくために必要な資質・能力を育成する
- ア 探究に関して学年が連携して取り組む新たな校内組織が主導する探究活動を推進する
- イ 外部での研修成果を校内にフィードバックさせる取り組みを活性化させる
- (3) 3 か年を見通した進路指導計画、生き方に関する学習機会を提供し、主体的かつ積極的に社会に参加する力を育成し、満足度の高い進路を実現する
- ※ 学校紹介による就職内定率 [R05：100% R06：100% R07:100%⇒令和 10 年度 100%維持]
- ※ 関関同立・産近甲龍・摂神追桃・外（関西・京都）合格者数を増加させる [R05：98 人 R06：65 人 R07: 人⇒令和 10 年度：100 人]
- (4) 生徒の国際的な視野を育むため、英語教育の充実を図るとともに、生徒のグローバルコミュニケーション能力の向上をめざす
- ア 英語圏の高等学校と姉妹校提携を行い、海外短期留学を実施する
- イ 海外短期留学の前段階として、海外修学旅行を実施し、海外の高等学校や大学との国際交流を行う
- ウ 講習、資格試験の受験指導、外部行事への参加、デジタルコンテンツの活用などより、英語教育を充実させる
- 2 自律心を高める生徒指導、地域と連携した教育活動、魅力ある特別活動に取り組み、安全・安心で地域・保護者に信頼される学校づくり
- (1) 自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制や生徒支援体制の満足度を向上させる
- ア 自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成する取り組みを学校全体で行う
- イ S a f e t y B i c y c l e 推進校として、生徒発信の交通安全運動に取り組む
- ウ 不登校生徒について、学びへのアクセスを確保するべく、遠隔授業や通信教育を活用し学習機会の確保に努める
- (2) 生徒の自己有用感を醸成し、帰属意識を高め、安心できる人間関係を構築するため特別活動（行事、部活動等）を充実させ、学校満足度を向上する
- (3) 安全・安心に学ぶことができる学習環境の整備に努める
- (4) 探究活動や部活動を通じた地域との連携を推進する
- 3 人権尊重の教育を推進するとともに、「ともに学びともに育つ」教育の実践により、すべての生徒に安全・安心な教育環境の構築
- (1) 共生推進教室を組織的な校内体制で推進するとともに、障がいのある生徒の自立を支援する
- ア 共生推進教室での充実した自立活動の取組みと職場実習の実施により、生徒全員の進路実現
- イ 障がい者理解教育研修を推進し、すべての教職員が共生推進教室の取組みに関わる
- ※ 共生推進教室生徒の進路実現 [R05：100% R06：100% R07:100%⇒令和 10 年度 100%維持]
- (2) 教職員の人権教育等の研修を定期的実施するとともに、生徒への人権教育を推進する
- ※ 教職員向け年 2 回の人権研修を実施し、人権尊重に関する項目の肯定率を向上させる [R05：81.3% R06：75.9% R07:88.7%⇒令和 10 年度：90%]
- 4 校務の効率化と働き方改革の推進
- (1) 校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る
- ※ 教職員「学校運営に教職員の意見が反映されている」を向上させる [R05：62.5% R06：64.8% R07:69.8%⇒令和 10 年度：80%]
- (2) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する
- ※ 80 時間/月以上の超過勤務者をなくす [R05：16 件 R06：13 件 R07: 件 ⇒令和 10 年度：0 件]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 8 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
	〔第 1 回 月 日〕 〔第 2 回目 月 日〕 〔第 3 回 月 日〕

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 「確かな学力」を身につけ、夢を実現する力を育成する教育活動	(1) 組織的に授業力向上と改善に組み 「主体的、対話的で深い学び」の授 業を实践し、生徒の学力を向上させる。 イ 授業満足度の向上と、わかりやすい授 業のため、全教員が生成 AI や多種多様 なデジタルコンテンツについて知識を 深め、それらを効果的に取り入れた授 業を行う。 ウ 「理数・看護発展コース」のカリキュ ラムについて、特色化を進める。 エ 芸術系分野、特に美術や音楽を得意と する生徒が活躍できる環境作りに取り 組む。	イ 定期的な相互授業見学（年 2 回）及び ICT を活用し た授業力向上のための研修 や研究授業を実施する。 ウ R10 年度入学生を見据えた 「理数・看護発展コース」の カリキュラムを作成する。 エ R10 年度選抜における美術 の特色枠設置に向けて、特 別講習の開催や新たな教室 配置を行う。	イ ・相互授業見学参加率 90%以上 [78%] ・授業力向上に向けて生成 AI を学びに生 かす力、1 人 1 台端末活用等の教員研修を 2 回以上 [4 回]、研究授業を 2 回以上 [6 回] 実施する。 ・生徒「1 人 1 台端末を効果的に活用して いる」肯定率 95%以上。[94.8%] ・生徒「授業アンケート肯定意識」を 3.4 以上。[3.4] ウ 昨年度発足した PT により、カリキュラム の原案を完成させる。 エ ・外部講師を招いた特別講習を 1 回以上開 催する。 ・現在使われていない部屋の新たな活用。	
	(2) 総合的な探究の時間をはじめ、すべて の教科・科目等において、探究的な学 びを充実させることにより、新たな価 値を生み出す力や課題を発見し解決し ていくために必要な資質・能力を育成 する。 ア 探究に関して学年が連携して取り組 む新たな校内組織が主導する探究活 動を推進する。	ア ・昨年度発足させた「探究 委員会」主導の探究学習を 推進する。 ・生徒の主体的な学びを促 進するためのルーブリック の策定と運用。 ・各教科で探究的な活動を 授業に取り入れる。	ア ・生徒「探究活動に取り組むことで、なり たい自分や自分の専門性を見つけ、進路を 決めることができた」肯定率 70%以上。 [65%]	
	イ 外部での研修成果を校内にフィードバ ックさせる取組みを活性化させる。 (3) 3 か年を見通した進路指導計画、生 き方に関する学習機会を提供し、主 体的かつ積極的に社会に参加する力 を育成し、満足度の高い進路を実現 する。	イ 外部研修に積極的に参加 し、伝達研修を活性化させ、 その成果を個々の授業に取り 入れる。 ・中期的目標に掲げる「確かな 学力」を具現化し、学習支 援ツールも活用しながら、 個別最適な学びを推進す る。 ・コース・系の特徴を生かし た進路指導を推進し、進学 実績を向上させる。 ・満足度の高い進路を実現 する。	イ ・教職員「私の授業では探究的な視点を取 り入れ、主体的・対話的で深い学びの授業 実践のための授業改善に取り組んでいる」 肯定率 90%以上。[89%] ・学力生活実態調査において、学習到達ゾ ーンを入学時と比較して 3 年時に 1 ラン クアップさせる。[未達成] ・関関同立・産近甲龍合格者数 10 人以上。 [15 人] ・摂神追桃・大阪経済・大和合格者数 50 人 以上。[39 人] ・外大（関西・京都）合格者 15 人以上。 [6 人] ・看護医療系大学合格者増。[8 人] ・芸術系大学合格者増。[1 人] ・就職内定率 100%維持。[100%] ・生徒、保護者「進路指導に関する項目の 満足度」肯定率 90%、85%以上。[90.5%、 88.1%]	

府立緑風冠高等学校

	（４） 生徒の国際的な視野を育むため、英語教育の充実を図るとともに、生徒のグローバルコミュニケーション能力の向上をめざす。 ア 英語圏の高等学校と姉妹校提携を行い、海外短期留学を実施する。 イ 海外短期留学の前段階として、海外修学旅行を実施し、海外の高等学校や大学との国際交流を行う。 ウ 講習、資格試験の受験指導、外部行事への参加、デジタルコンテンツの活用などより、英語教育を充実させる。	ア 英語圏の高等学校と姉妹校提携を行う。 イ 海外修学旅行を計画し、海外の高等学校や大学との国際交流を企画する。 ウ ・REC（緑風冠英検カップ）開催による英検受験者・合格者の増加をめざす。 ・外部団体が主催する弁論大会への参加を促す。	ア 英語圏の高等学校と姉妹校提携を結ぶ。 イ 次年度に向けた海外修学旅行実施計画を作成する。 ウ ・英検受験者増 [42 人] - 英検合格者増 [15 人] ・外部団体主催の弁論大会への参加 1 回以上[1 回]、入賞 1 名以上 [0 名]	
2 安全・安心で地域・保護者から信頼される学校づくり	（１） 自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制や生徒支援体制の満足度を向上させる。 ア 自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成する取り組みを学校全体で行う。 イ SafetyBicycle 推進校として、生徒発信の交通安全運動に取り組む。 ウ 不登校生徒について、学びへのアクセスを確保するべく、遠隔授業や通信教育を活用し学習機会の確保に努める。 （２） 安心できる人間関係を構築するため特別活動（行事、部活動等）を充実させ、学校満足度を向上させる。 （３） 安全・安心に学ぶことができる学習環境の整備に努める。	ア ・教員全員による生徒指導体制を推進する。 ・時間を守る意識を徹底する。 ・校則について生徒が主体的に関わる機会を設ける。 イ ・安全・安心や規範意識の醸成に関して、生徒が主体的に関わる。 ウ ・遠隔授業や通信教育を活用するにあたっての体制を整える。 ・要支援生徒について支援教育コーディネーター、教育相談委員会、担任、SC、SSW による連携した支援を行う。 ・生徒会活動を推進し、地域とも連携し学校行事を更に活性化させる。 ・地域や中学校、部活動大阪モデルにおいてのペアリング校と連携し、部活動指導員を有効に活用した部活動を行う。 ・防犯・自然災害・連絡等に関する整備を行う。	ア ・教員「私はルールやマナーの指導について、違反の現場に遭遇した際は学年を問わず声かけを行い、その都度注意し指導している」 肯定率 90%以上。[81.1%] ・生徒「学校の規則をきっちりと守っている」 肯定率 95%以上。[96.1%] ・登校時遅刻を前年度より 10%減少させる。[3404 件] ・生徒会活動や探究活動を通してルールメイキングに 1 回以上取り組む。[新] イ ・従来の交通安全一斉指導に加え、警察署と連携した生徒会による交通安全キャンペーンを年 2 回以上実施する。[2 回] ウ ・遠隔授業や通信教育を活用するにあたっての内規の整備。 ・生徒「教育相談に関する満足度」 肯定率 90%以上。[84.8%] ・クラス活動や学校行事参加へ積極的に参加する 肯定率 85%以上を維持する。[91.4%] ・保護者の学校満足度 85%以上。[85.9%] ・部活動加入率 50%以上。[53%] ・教員「事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている」 肯定率 80%以上 [77.4%]	

府立緑風冠高等学校

	(4) 探究活動や部活動を通した地域との連携を推進する。	・探究活動や部活動を通した地域との連携を推進する。	・生徒「地域や社会、世界がより良くなるためにできることに取り組んでいる」肯定率 80%以上。[74. 8%]	
3 人権尊重の教育と、「ともに学びともに育つ」教育の実践	(1) 共生推進教室生徒の自立を支援する。 ア 共生推進教室での充実した自立活動の取組みと職場実習の実施により、生徒全員の希望する進路を実現する。 イ 障がい理解教育研修を推進し、すべての教職員が共生推進教室の取組みに関わる。 (2) 教職員の人権教育等の研修を定期的実施するとともに、生徒への人権教育を推進する。	ア 生徒全員の進路実現。 イ 障がい理解のための教員研修、防災訓練を行う。 ・教職員の人権研修と生徒の人権教育を推進する。	ア 共生推進教室 3 年生の進路実現 100%。[100%] イ 障がい理解のための研修、防災訓練をそれぞれ 1 回以上行う。[各 1 回] ・教職員対象の人権研修を 2 回以上実施する。[2 回] ・生徒の人権に関する肯定率 90%以上を維持する。[90. 9%]	
4 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る。 (2) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。	・職員会議に至る各種会議を情報交換と課題検討の場として有効に機能させる。 ・学校行事の精選と各分掌業務の見直し、 I C T の更なる活用により、業務負担の軽減を図る。 ・部活動方針の遵守、全校一斉定時退庁日の徹底に取り組む。	・教職員「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」肯定率 80%以上。[67. 9%] ・教職員「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を向上させる。[79. 2%] ・ 80 時間/月以上の超過勤務者を前年比 50%減少させる。[10 件] ・ 年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする [新]	